

令和5年度 静岡県立袋井特別支援学校 第4回 学校運営協議会

(学校関係者評価委員会 校内コンプライアンス委員会を含む) 議事録

1 日時 令和6年2月28日(水) 9:30~11:30

2 会場 静岡県立袋井特別支援学校 会議室

3 参加者 計16人

(1) 学校運営協議会委員6人

委員A、委員B、委員D、委員E、委員F、委員G 委員Cは欠席

(2) 学校関係者10人

校長、副校長、教頭、事務長、小学部主事、中学部主事、高等部主事、教務課長、
支援連携課長、コミュニティ・スクールディレクター

4 内容

会長挨拶

- ・2月20日に中高の作業製品販売会が地域で行われた。生徒が作った製品が地域の人目に触れるよい機会となった。
- ・新幹線高架下の信号機が設置される。3月12日頃までには運用される。自治会で行っている登校の見守りも3月8日で終了する予定である。

5 協議事項

(1) 令和5年度学校関係者評価委員会(司会 副校長)

①令和5年度学校関係者評価の説明(教務課長、高等部主事)

学校経営報告書、保護者アンケート、高等部生活アンケート、高等部進路状況に沿って説明

②委員より提言

委員A: 高等部生活アンケートについて、SNSの使用について世間では、誹謗中傷で、子どもが登校できなくなるということも聞く。学校でのLINE使用のルールやSNSからの自分の身の守り方などを繰り返し教えていくことが必要。また、他者を認めていくことも大切。使い方次第で相手の感じ方も変わってくるので、みんなで話す機会を設けるとよい。

委員B: 学校管理下での重大事故件数0件に向けて、取組の評価ができるとよい。どのようなことを行ったか、具体的に表現するとよい。高校生生活アンケートにおいて、アンケートで自分の本当の想いを伝えられない子どもたちへの配慮もしてほしい。

委員D: 袋井市連携は特別支援教育について知ることができて本当にありがたい。専門的な取り組みを教えてもらえるよい機会となっている。是非今後も続けてもらいたい。

委員E：1月の北陸の地震からまた学んでほしい。本当に困っている時は、なかなか発信することができない現状を理解してほしい。

委員E：最近のニュースで、うずらの卵を喉につまらせる事件があった。学校でも何か対応したか。

⇒地震、うずらの卵の件共に、朝礼で職員に話をして周知した。学年等の小グループで話をする事で、自分事として考える機会を設けた。(副校長)

委員E：報告を聞き、地域連携はうまくいっていると感じる。

委員F：自分の子が1月の地震のときに「地震だ」と言えた。学校での取組が身につけてきていると感じる。今後も災害訓練は続けて欲しい。

委員F：学校生活アンケートを見ると、高校3年生になると、いろいろと悩み等が出てくるのが分かる。学校でアンケートの様な自分の気持ちを伝える機会があればよいが、学校を卒業した時に保護者に言えるのだろうか、伝えてくれるのか不安。誰かに伝えるという指導もしてもらえるとよい。

委員G：「医療的ケアにおける緊急時や・・・」の項目がB評価なのが気になる。医療的ケアで電源は必須。保護者が迎えに来ることができない場合、学校で1週間程度、電源の確保ができるのか？ポータブル電源の利用など、何を利用し、どのくらい電源が保てるのか考えておくとよい。

⇒会議室は太陽光蓄電池が使える。また、発電機が4台ある。電源については、再度確認をする。(副校長)

委員G：高等部アンケートについて、LINEでのやりとりの中では、本人同士で解決できないこともある。LINEやスマホを使っている生徒に対して、このような時にはどうすればよいか是非学習会をして欲しい。保護者への研修など、保護者に対してのアドバイスも欲しい。保護者と教員のコミュニケーションを大切に、学校と家庭、お互いの様子が知れることを大切にしてほしい。

⇒生徒にはスマホの使い方やSNSの勉強会を毎年行っている。(高等部主事)

(2) 校内コンプライアンス委員会(司会 副校長)

①不祥事根絶取組説明(教頭)

- ・取組は計画に沿って研修など2月までの内容については実施済み。少人数のグループでの話合いで意識を高めている。
- ・職員同士、話ができる風通しがよい職場で不祥事は起きていない。

②委員より提言

委員F：今後も講習などを行い、気を引き締め指導してほしい。

委員A：セクハラ、パワハラについて 専門家のセミナーを受けるのはどうか。身内だと感じないこともあるので、外部の考え方を取り入れるとよいのではないか。

委員G：「なやみ相談会」とは？

⇒校内に相談員を設けている、何かあれば相談できるようにしている。(教頭)

：人間関係の相談は同じ職場の人にはしにくいのではないか。外部の人の方が話しやすい場合もあるのでは。

⇒県にも相談ができる体制があり、そちらも掲示板などで周知している。(教頭)

(3) 令和6年度学校経営計画案について(司会 会長)

①令和6年度学校経営計画案説明(校長)

②委員より提言

委員B：連携について、磐田市など袋井市以外との連携も入れて欲しい。磐田にできる新校の情報も欲しい。

⇒今後、PTAで新校への意見をアンケートして、提出する予定である。(校長)

委員D：経営計画に沿って着実に進めてもらいたい。

地域の教育力が高いと感じているので、地域と学校がお互いによい方向に進んでいけると良い。地域との連携が盛んになるのはよいが、業務が増える心配もある。教員の働き方改革も大切。

委員E：連携については、地域よりもまずは保護者。

職場環境として、職員のアメニティ(心地よさ、快適さ)は大事ではないか。気持ちよく働くことができる職場づくりは大事と考える。

⇒職員が休める場所(一人になれる場所)が必要とは思っている。(校長)

委員E：人工呼吸器をつけているお子さんにとって、災害時には、搬送手段など周りの施設に依頼することも大切。困ったときには東海アクシス看護専門学校には、看護師がいるので、頼りにしてほしい。

委員F：子どもたちのために先生方は頑張ってくれているが、保護者のクレームで心が折れることもあるのでは。そんな時の先生方の心のケアを大切にしてほしい。

委員G：地域販売会について、袋井市以外にも宣伝するとよいのでは。さらに、のぼりなど販売会をやっていることをアピールできるとよい。地域の方が来ることに関してのアピールが少ないのではと感じたので、何を販売しているのかも分かるとよい。販売の場所としては、とてもよかったので、今後、保護者や地域の意見で改善して行って欲しい。

世代によって働き方の考え方も違ってきている。若い人(若手教員)の視点に立つてどのような職場がよいのかを考え、働き方改革をする必要がある。

委員A：自己肯定感を高めるのは大切。先生がほめるのはとても意欲が育つ。先生方は、ほめ上手になってもらいたい。自他共にお互いを認め合う環境を作っていって欲しい。

③令和6年度学校経営計画の承認・・・全員挙手で承認

(4) 今年度の活動報告 (支援連携課)

・コミュニティ・スクールディレクターから今年度の活動の報告を映像を交えて伝える。

小学部：夏野菜の栽培 アコーディオン演奏 地域探検 歌の交流会 など

中学部：地域清掃 地域学習 地域で働いている(農業)を見せてもらう など

高等部：製品へのアンケート 作業製品(和の湯)

きぼう館、あえるもんでの作品展示(小中高)

2月20日 袋井市体育館、東海アクシス専門学校体育館での地域販売会(中高)

・地域資源を活用した教育活動の実践を計画的に行っていく。

(5) 校長御礼

学校評議委員会から学校運営協議会に変わり、お互いに前向きに言いたいことを気持ちよく言える場になり、とても良かったと思う。気が付いたことがあれば今後も教えていただきたい。